

いわゆる

## 特権エレベーター撤去の意義



柴橋市長への市民の期待は、まず「前市政からの決別」では、と思います。前市政では多くの課題が残されていますが、中でも象徴的であったのが新庁舎建設に関係する多くの課題です。とりわけ、いわゆる特権エレベーターは立体駐車場の使用により議員の利用は希薄となりました。ついには「市長用エレベーター」の誘りも囁かれはじめ、前市政を象徴する物との声も聞こえてきました。建築物の問題だけではなく、市政の執行者が替わったかどうか、市民が実感出来るかの意義でした。

現古田知事が、前知事から県政を引き継いだ直後、いわゆる県の「裏金問題」が表面化し、古田知事の記者会見を多く目にしましたが(前知事の秘書はご存知だろうか?)、この事件の処理を終えて、古田県政が始まったと県民は実感したと思います。

柴橋市政は当時の古田県政の過渡期と合わさって見えます。毎年、職員1人が自殺する記録を残した前市政の改善も象徴的な問題です。伊藤哲さん事件をへて、来年3月には「岐阜過労死をなくす会(仮称)」が結成されます。この会の結成が皮肉にも前市政の功績となるようです。

## 東部クリーンセンター火災事故の訴え始まる

11月議会で、標記の粗大ゴミ処理施設火災事故に伴う損害金支払いを求める訴えを提起する議案(第119号)が提案され、松原のりかずは賛成しました。

被告となる者の代表者は「荏原環境プラント株式会社 代表取締役 大井敦夫」 請求の趣旨の主位的請求「被告は、原告に対して、金4,362,508,399円及びこれに対する平成27年10月23日から支払い済みまでの年5分の割合による金員を支払え。」との内容です。

損害金の支払いがない中で裁判もせず、復旧費用の予算化は「市民の理解が得られない」と前市政時代に主張してきましたが、裁判となります。これも細江市政の大掃除。

## 東部クリーン工事 メタウォーター 心配だが

水道部北部プラントのりんプラント工事を行なったメーカーがメタウォーターです。500万円稼ぐのに1億円維持費のかかる機械です。「水部門とゴミ部門は違います」との環境部説明でしたが、心配は耐えない? 「設計思想は同じ」との心配をします。契約金額 3,218,400,000円 の工事の厳格な管理監督を指摘しました。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

## 避難したけど 情報が無い テレビ無い避難所

「台風で避難したけれど、テレビも無い場所で知りたい情報が入りません」と市民からお問い合わせがありました。災害時は混乱し各種設備の異動も困難です。即時性からはNHK等のテレビ放送が基本なら、テレビの常設も基本では？ 避難所開設が常態化していない岐阜市でしたが、本年は開設に伴い不備が明らかになったようです。

90億円もの不要額を出す前に、公民館の改善が出来るのでは？

## 少額予算で子育てアピール 3人乗り自転車と

保育所利用者の3人乗り自転車事業は、少額予算で子育てサービスをアピール出来る事業です。「貸し出し事業」は担当課の直接業務とせず、NPOなどの民間団体をお願いし、そのことで市内団体の育成に乗り出すことに意義を見つきたいものです。福祉団体の組織化、情報交換の環境整備も子供部の仕事かとも。

## 新年 消防 出初式

2019年1月6日(日)

午前9時30分～午前12時

市中央青少年会館(明德)多目的広場

2018年は全国的にも、大変災害の多い年となりました。市民の安全、安心を支える自治体の活動が問われ、自治体消防への関心も高めた年となりました。



出初式 写真撮影 服部勝弘 岐阜市議会議員



松原のりかず  
☎058-253-2500